

KOKAGE —こどもの笑顔が溢れる病院—

■設計趣旨

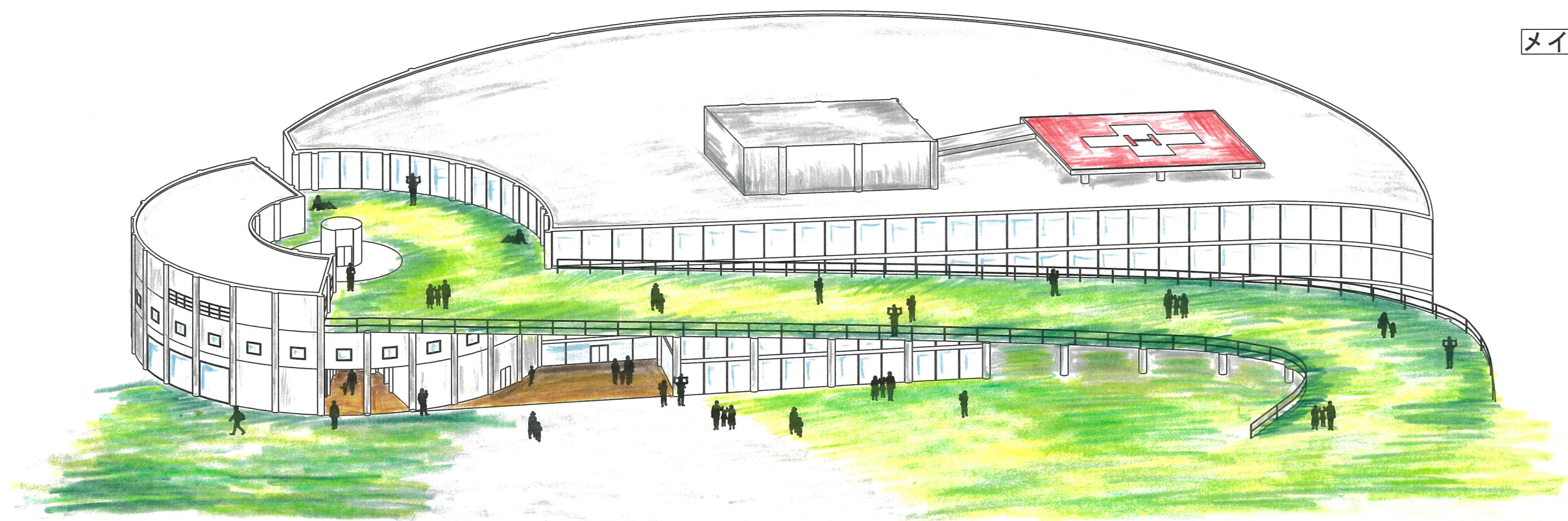
現在愛媛県では少子高齢化や若者の東京都への流失による人口減少が問題になっており、深刻化すれば県の経済、社会基盤が崩壊する可能性がある。私は、この問題を解決するために子育てしやすい街づくりが重要だと考えた。

そこで私は、愛媛県立中央病院の敷地に、こどもが自ら行きたくなるような医療施設、『KOKAGE—こどもが笑顔で溢れる病院—』を設計した。

この病院は本館と入院病棟に分かれており、本館は、こどもが恐怖心を持たないように、広々とした入口を設け、内装には動物や植物のイラストを取り入れられている。また、長い待ち時間によりストレスを感じさせないように、各場所にキッズスペースを設けた。

入院病棟は、付き添いの家族がストレスを感じないように、個室には患者用と付き添い者用のベッドを設置した。また、入院患者と外来患者の交流の場を設け、風通しがよく開放的な病棟にした。共有キッチンダイニング、院内学級は屋上に配置することにより、患者や付き添い者の気分転換ができる。

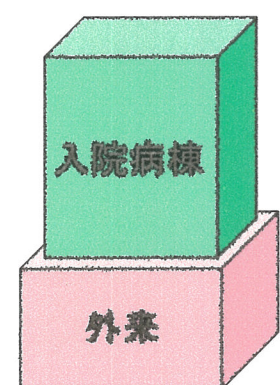
この医療施設により、愛媛県がより子育てのしやすい街になり、人口減少の問題の解消のきっかけになることを願っている。



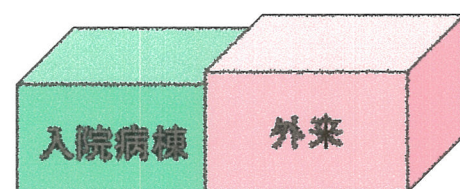
■現在の愛媛県立中央病院

○外来と入院病棟の分離

現在の県病院は12階建てで、1階から2階までが外来、6階から12階までが入院病棟に分かれており、入院病棟が孤立している。この施設では外来と入院病棟を隣接して配置した。これにより患者どうしの交流が増え、入院患者のストレスが解消される。



〈愛媛県立中央病院〉



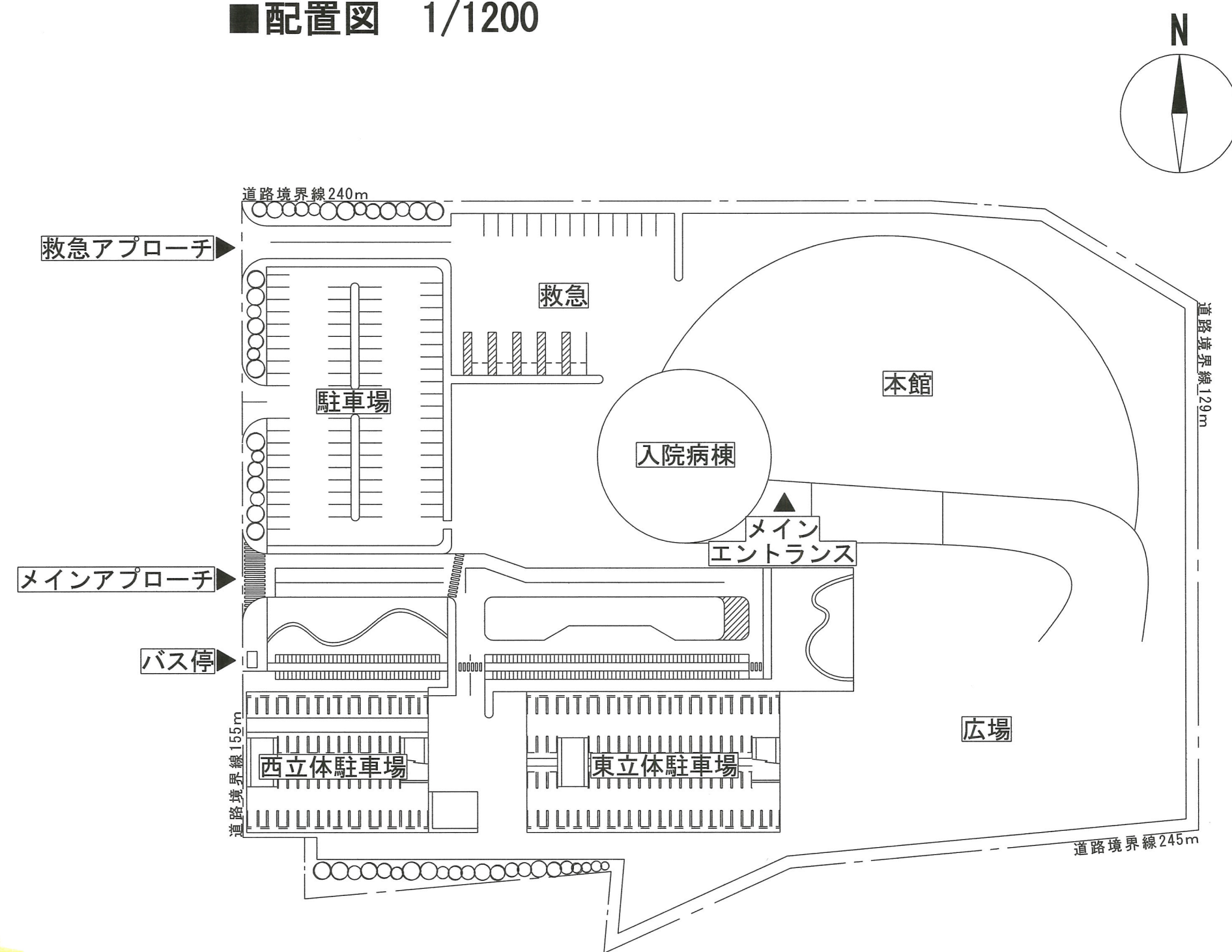
〈KOKAGE〉

○病院に対しての恐怖心

現在の県病院は高層建築物になっており、圧迫感から恐怖心を感じてしまうこどもも少なくない。こどもが自ら行きたくなるような病院にするには、この恐怖心を解消する必要がある。

この施設は、低い階数で設計し、圧迫感を解消した。また、正面に大きなスロープを配置し、メインエントランスをスロープの下に配置した。これにより、秘密基地に向かっていくようなワクワク感を演出した。

■配置図 1/1200

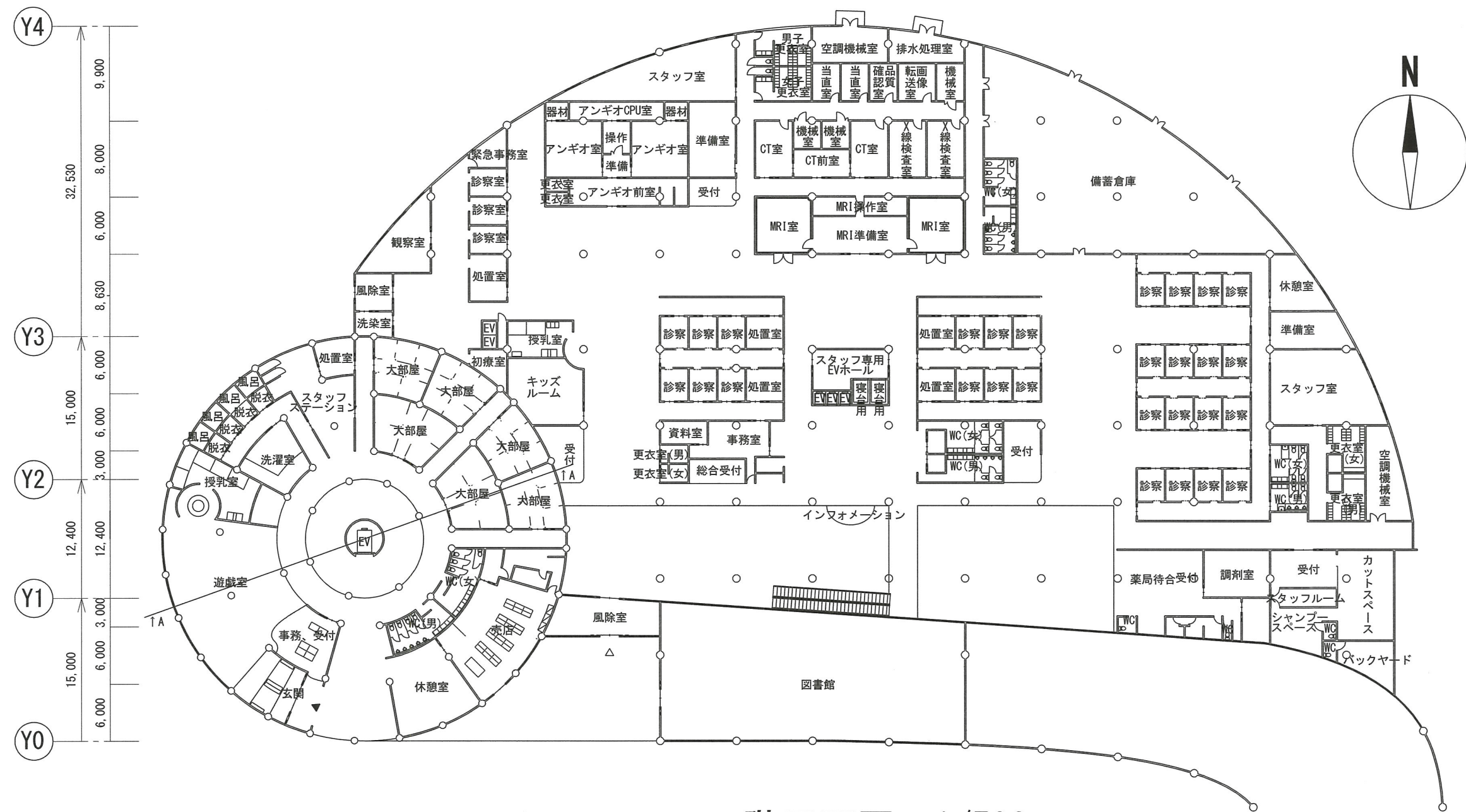


■建設予定地

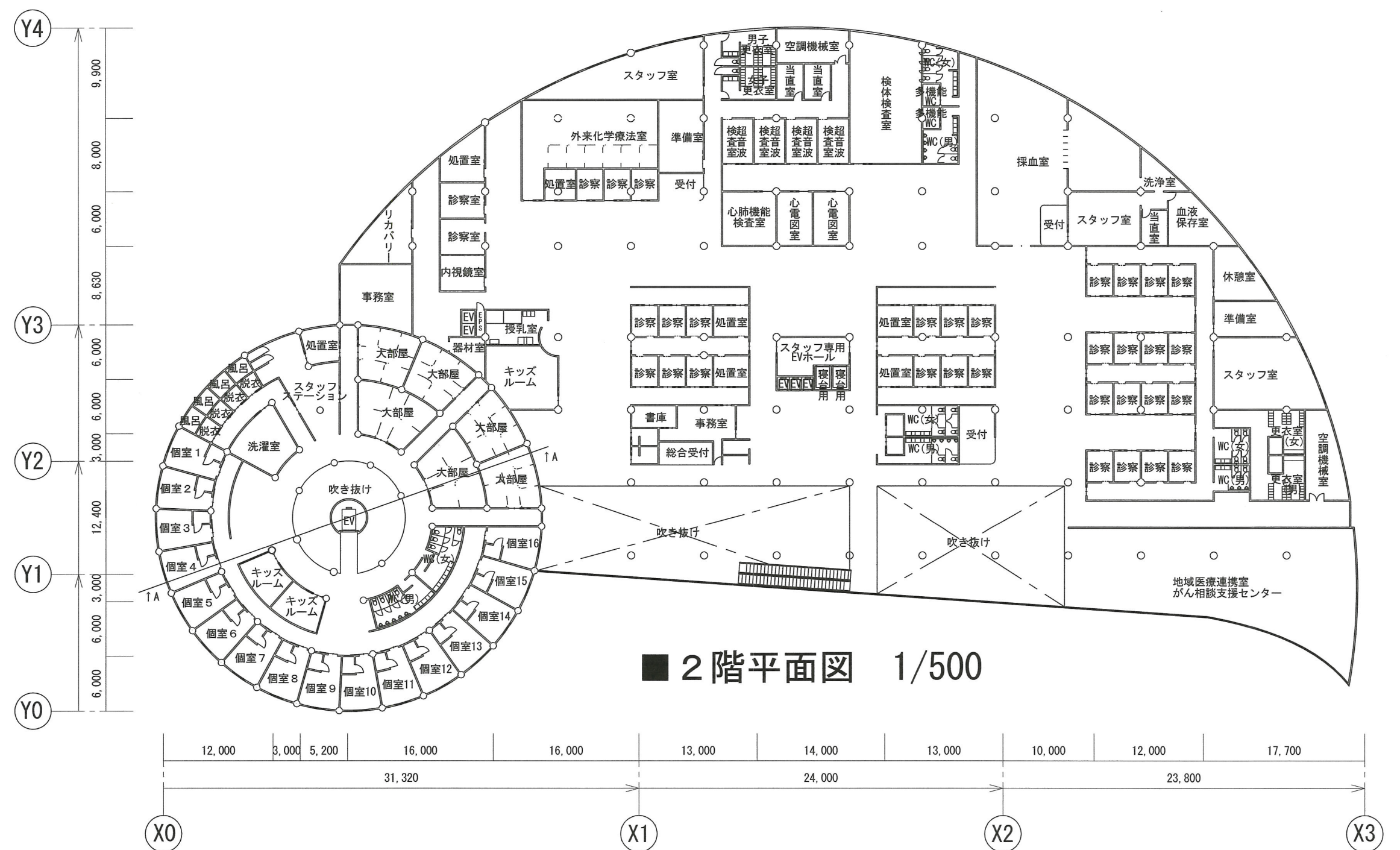
愛媛県立中央病院の敷地に建設予定。

近くには松山市駅があり、敷地内にバス停もあるため、交通の便に優れている。また、市街地付近であり、商業施設も近いため、利便性がある。RC造地上4階建て、最高高さ18mの建物である。





■ 1 階平面図 1/500



■ 2 階平面図 1/500

■ 遊戯室

ここは、入院患者に限らず、だれでも利用できる遊戯室だ。こども預かりサービスを行っており、外来で来た際にこどもを預けることができる。また、行事ごとにイベントを行っていて、入院患者の気持ちのリフレッシュの役割を果たしている。



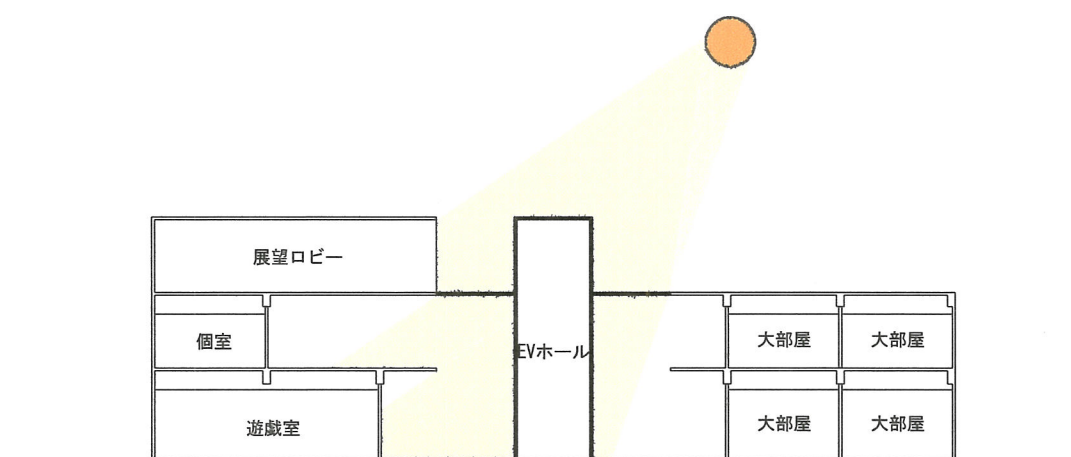
■ 図書館

ここは図書スペース、デスクワークスペース、カフェスペースの3つに分かれている。施設内はWi-Fiが完備されており、付き添い者は施設の中でデスクワークが出来る。カフェスペースでは院内生活で疲れた体を休めることができ、付き添い者の気持ちのリフレッシュの役割を果たしている。



■ 入院病棟の採光

入院病棟の中央には、自然光をもたらし、入院病棟のランドマークとなる「光庭」を配置した。



■ A-A断面図 1/400

■ 個室

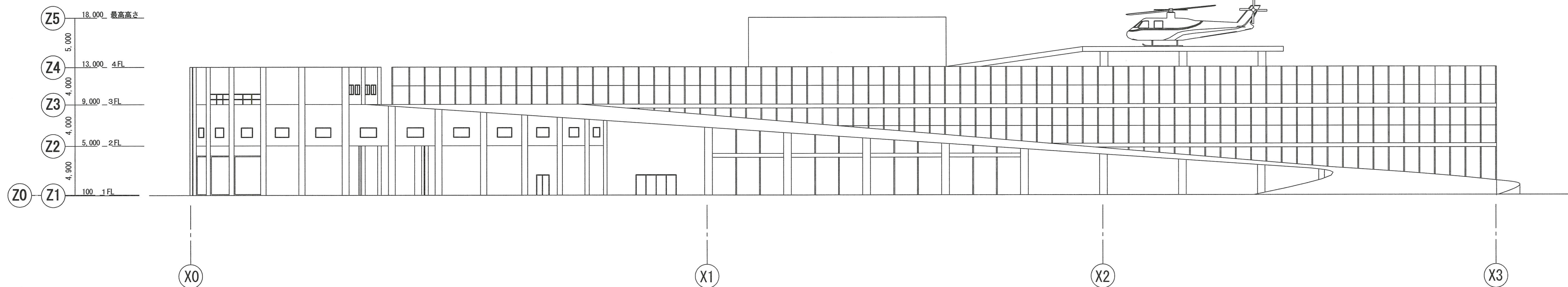
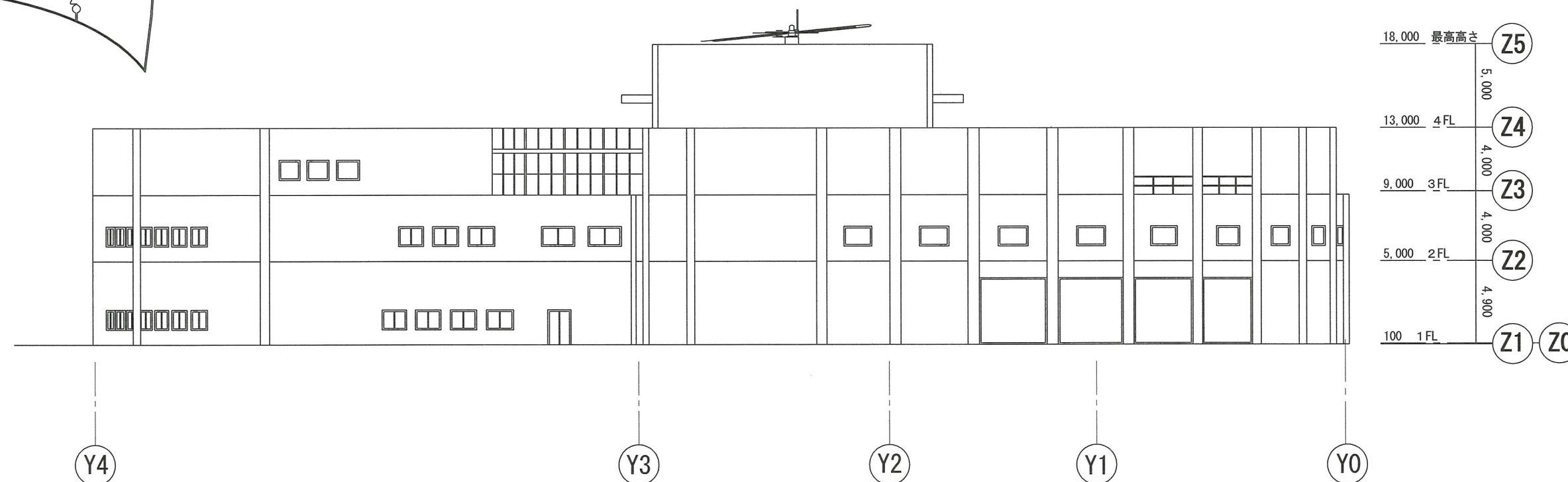
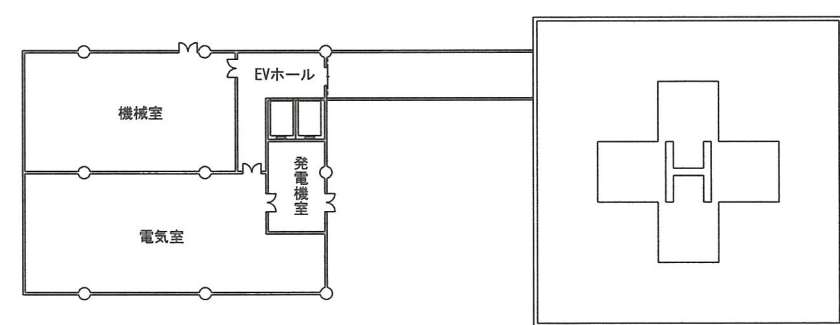
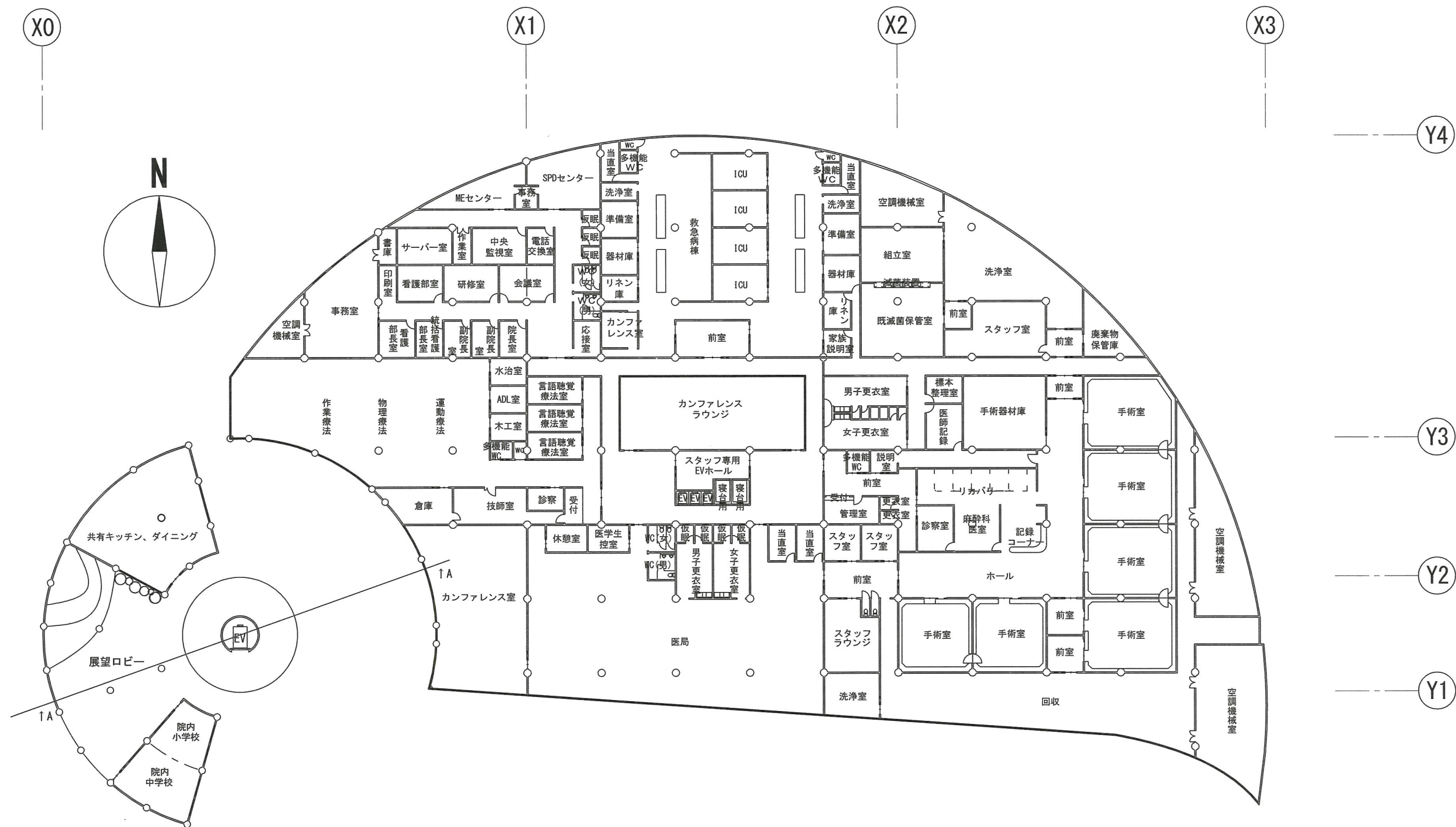
県病院の個室は患者用のベッドしかなく、付き添いの人は小さなソファベッドを利用していた。この施設の個室はベッドを2つ完備しており、ストレスフリーで患者のサポートに臨むことができる。



〈愛媛県立中央病院〉



〈KOKAGE〉



■リハビリ室

ここでは作業療法、物理療法、運動療法など、様々な治療を受けることができる。南面の壁は全面ガラス張りになっており、屋上庭園の様子を眺めながらリハビリを受けられる。



■共有キッチン・ダイニング

県病院では、付き添い者の食事はコンビニで買うことしかできず、コスト面でとても大きな負担となっていた。ここではいつでも好きなものを作って食べることができる。また、定期的に料理教室などのイベントが行われており、入院患者や付き添い者の気分になっている。

